令和3年度　西東京市立東小学校　学校評価表

＜学校教育目標＞

「ともに学び合い、心ゆたかに生きる子」

〇よく考える子（知）　〇思いやりがある子（徳）　〇たくましい子（体）

西東京市子ども条例の理念のもと、自他の人権を尊重し、よりよい国際社会を築くための資質や能力の伸長を図る。

自ら学び、自ら考え、心豊かで思いやりのある元気な児童の育成を目指す。

＜目指す学校像・児童像・教師像＞

学校教育の成果を継承しつつ、「不易」と「流行」を見極めて、改革・改善を図る。創造性と先進性のある学校経営を進め、保護者や地域の信頼に応える学校を

〇目指す学校像　児童の学びを大切に、保護者、地域とともに歩む学校

〇目指す児童像　進んで学び、よく考えて判断し、発言し行動する児童

〇目指す教師像　教育のプロとしての自覚と、誇りと情熱をもった教師

学校関係者評価

A･･･評価は適切である

B･･･評価に一部改善が必要である

C･･･全体的に改善が必要である

領域	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	目標（評価基準）		教職員 学年	教職員 評価	アンケート	評価（%）	分　析	改　善　策	学校関係者評価 評価	学校関係者評価 御　意　見
健康で安全な学校生活	児童の健康と安全の増進	体力づくり、健康や食に関して計画的に指導し、児童・保護者への啓発を進める。	体力向上における「遊び」の果たす役割を重視し、運動の日常化を図る。 担任と養護教諭、栄養士との連携を強化し、指導の充実を図る。	4	児童のできているという評価80%以上	①	3.7	児　童 体育や休み時間など、すすんで体を動かしている。	83.0	短縄旬間では目標に向かってすすんで取り組んだり、教員が児童と一緒に校庭へ出て遊んだりしていて、多くの児童が体を動かすことを楽しんでいた。一方、行事の延期の影響により休み時間にゆとりがなかったこと、感染症対策でおにごっこ等の遊びが制限されたほか、遊び方をあまり知らない児童がいることが課題である。	引き続き、休み時間には校庭へ出て体を動かすことを児童に促す。また、遊具の充実を図ったり、色々な遊びについてOJT等を通して教員に周知したりし、児童が体を動かす楽しさや喜びをさらに味わうことができるようにしていく。	A	・子供達の心と体の健康づくりに体力向上は不可欠。縄跳び、マラソンは基礎体力、持久力を養う上でも大事なので、運動が苦手な児童のフォローしたり、家庭と連携をとったりしながら継続的に実施していくことが大事。 ・学年が上がるにつれ、休み時間に作業が入り、遊ぶ時間がない。時間にゆとりが欲しい。 ・改善策の遊具の充実は、嬉しく思う。 ・遊び方を知らない児童は、どの学年に多いのか。２年生は入学後ずっと制限のある中での遊びしかできなかった影響があるのではないか。
					児童のできているという評価80%以上	②	3.3						
				3	児童のできているという評価70%以上	③	3.3						
						④	3.5						
				2	児童のできているという評価60%以上	⑤	3.8						
						⑥	3.3						
				1	児童のできているという評価60%未満	専	3.8						
						全	3.5						
		教育環境や設備の点検、整備を定期的に実施し、安全な学校づくりを推進する。	定期的な安全点検に加え、ユニバーサルデザインを意識し、教室や校舎内を整備・整頓する。	4	保護者のできているという評価80%以上	①	3.7	保護者 児童は、防犯・防災、安全を意識して生活している。	83.1	セーフティ教室や交通安全教室、避難訓練などの取り組みを通じて、児童は防犯や防災についての知識を定期的に身に付けている。学校だよりやホームページ等で保護者にも取り組みについて周知しているが、学校外での様々な場面にも対応できるよう、家庭や地域との連携をさらに深める必要がある。	今後も外部講師を招いて出前授業を行ったり、様々な場面への適切な対応を学んだりするなど、防犯・防災、安全について年間を通じて指導を行う。また、その中に学校と関わりのある地域の方々と一緒に取り組む内容を盛り込むなど、保護者や地域との連携を強化する。	A	・特に低学年に登下校時の安全教育を行った方がよい。 ・コロナ禍で密がNGなため、指導が困難な面も理解できる。状況にあった指導をお願いしたい。 ・防犯、防災については、今後も協議会での検討を継続していく。
						②	3.8						
				3	保護者のできているという評価70%以上	③	4.0						
						④	3.7						
				2	保護者のできているという評価60%以上	⑤	4.0						
						⑥	3.5						
				1	保護者のできているという評価60%未満	専	3.8						
						全	3.8						
確かな学力の向上	教職員の指導力の向上	カリキュラムマネジメントを進め、教材や指導法を工夫し、授業改善を進める。	ＧＩＧＡスクール構想に則り、全教員でタブレット学習の推進を図る。 教育活動全体で行う道徳授業の充実を期し、全体計画別葉を作成し実践する。	4	児童のできているという評価80%以上	①	3.8	児　童 タブレット学習にすすんで取り組んでいる。	77.8	タブレットを活用した初年度の取り組みではあったが、児童は意欲的に学習し、オンライン授業もスムーズに進められた結果だと考えられる。	現状の取り組みを継続して行うとともに、教職員の指導力を高めるために、校内研究と合わせて、研究・研修を進めていく。	B	・何もかも初めての状況下で、子供達の学習が滞ることがないよう様々な工夫や研究など先生方の大変なご努力に感謝している。 ・児童は、オンライン授業に慣れてきているが、集中力を保たせる授業内容を考えてほしい。 ・タブレット使用や、オンライン授業についていけない児童の発掘と対策が今後必要。 ・学力向上を図るためにも、「学習スタンダード」よる学習活動の定着が何よりも必要。「東小学習スタンダード」は「学校」と「家庭」が同じ方向に子供を育んでいくことが基本。 ・低学年のタブレットの持ち帰りは、大変なので改善ができればよい。
						②	3.8						
				3	児童のできているという評価70%以上	③	3.5						
						④	3.7						
				2	児童のできているという評価60%以上	⑤	3.9						
						⑥	3.4						
				1	児童のできているという評価60%未満	専	3.9						
						全	3.7						
		個々に適した指導法の工夫や改善を行う。	義務教育９年間の系統性を重視し、基礎基本から確実な定着を図る。 各教科等を横断して貫く普遍的な資質・能力を、言語活動の充実により育む。	4	保護者のできているという評価80%以上	①	3.7	保護者 漢字や計算ができるようになっている。	89.8	9割の保護者が、児童は漢字や計算ができるようになっているという結果から、学習の習熟が図られていることがわかる。	個々に対応した指導法を工夫しながら継続し、日々の漢字練習や計算練習、ベーシックドリルを活用した基礎基本の確実な定着を図る。	A	・定期的な習熟度のチェックが必要。その方法を考えていく必要がある。 ・学習の基本となる「話をしっかり聞く」「わかりやすく話す」力の育成に努め、言語活動の充実を図ることが大事。 ・必ず宿題が出るので、勉強の習慣が身に着いた。ただ、学年により宿題量にかなりばらつきがある。
						②	3.6						
				3	保護者のできているという評価70%以上	③	3.8						
						④	3.5						
				2	保護者のできているという評価60%以上	⑤	3.6						
						⑥	3.3						
				1	保護者のできているという評価60%未満	専	3.8						
						全	3.6						
豊かな心の育成	生活指導・特別支援教育の充実	本校の生活のきまりを全教職員が共通理解し、共通した指導を実践する。	挨拶や言葉遣い、整理整頓の指導を徹底し、社会性や規範意識を育成する。	4	保護者のできているという評価80%以上	①	4.0	保護者 児童は自分から挨拶をしている。	80.8	前年度と比較し、保護者の評価が約２%減っている。コロナ禍での人との距離のあり方や人と接する機会の減少から、児童の挨拶に対する意識が低下していると考えられる。	挨拶に関する取り組みを、学校全体でより充実させていく。学校便り、朝会の放送など、様々なところで呼びかけていくと共に、時と場合に合った挨拶の在り方を指導していく。年度始めや学期始めには、東小スタンダードに沿って、きまりや挨拶などの確認をする。	B	・人間としてよりよく生きるための基礎基本となる規範意識は、低学年時より育成することが大事。「東小生活スタンダード」を継続徹底し、振り返りを実施する。 ・小中で連携した取組ができると更に良い。 ・大人から声をかける、元気に大きな声で挨拶しているのを見せることが大切だと思う。 ・校内でも挨拶を返してくれる児童が少なくなっている。コロナ禍の影響か、子供達のコミュニケーションが薄くなっている気がする。 ・挨拶は基本であるので、大切にしたい。コロナ禍で社明運動も実施できず、特に低学年は意識の低下は否めない。
						②	3.8						
				3	保護者のできているという評価70%以上	③	3.3						
						④	3.7						
				2	保護者のできているという評価60%以上	⑤	4.0						
						⑥	3.5						
				1	保護者のできているという評価60%未満	専	3.5						
						全	3.7						
		特別支援教育、虐待防止やいじめ対策について全校で組織的に対応する。	学齢に応じ様々な人権課題について考えさせ、人権尊重の精神を育む。 異学年交流と情操教育の充実、SDGsの取組を推進する。 教育支援コーディネーターを中心に、校内委員会で組織的・継続的に取り組む。	4	児童のできているという評価80%以上	①	3.2	児童 東っ子タイムやクラブ活動、委員会活動では、他学年やあすなろ学級の人と楽しく交流している。	88.6	東っ子タイム、クラブ、委員会活動はコロナ禍で影響を受け、様々な制限があり、回数も以前に比べ、大きく減ってしまった。そのため、児童も、交流しているという実感が湧きにくく、前年度と比較すると評価が約５%減少している。	今後も、児童やコロナ禍の実情に沿って、その時々に合った方法を工夫して考えていく。今年は東っ子タイムを2分割して実施したが、できる限り児童の交流の機会を確保していく。	A	・低学年にとって、高学年との交流は、良い刺激になる。 ・あすなろ学級の存在は、思いやりなど心の教育面で互いに意義あるもの。状況をみて更なる前進を期待したい。 ・コロナ禍の今は、あえて制限する必要がある。 ・東っ子まつりの実施にも協力していきたい。
					児童のできているという評価80%以上	②	3.3						
				3	児童のできているという評価70%以上	③	3.1						
						④	3.4						
				2	児童のできているという評価60%以上	⑤	3.6						
						⑥	3.6						
				1	児童のできているという評価60%未満	専	3.8						
						全	3.4						
保護者や地域との連携	保護者・地域・他機関と連携した教育活動の推進	保護者、地域へ教育活動を積極的に公開し、外部人材の活用を推進する。	地域人材を活用した体験的な授業を実施する。	4	保護者の行っているという評価80%以上	①	2.3	保護者 学校は、地域人材（地域・保護者）を活用した体験的な授業を行っている。	75.1	地域人材を活用した体験的な授業の実施については、学年によってばらつきがあった。また、地域人材の確保が難しい現状がある。今年度は、コロナ禍により実施できなかった取り組みが多かったことが数値に表れている。	来年度は、まちなか先生（学校出前講座）を活用し、６年生への平和講座などを実施する。また、コロナ禍にあっては、オンラインでの出前授業の実施も検討していく。	B	・適切な改善策だと思う。 ・高学年だけでなく、全学年が様々な人材と会う機会が持てたら良い。 ・「下保谷の自然と文化を記録する会」との連携による藍の栽培実施は立派である。 ・もっとオンラインを活用すべき。担任以外の講師も考慮に入れてもよい。 ・オンライン出前授業など新たな取り組みに期待する。 ・小中学校、地域者との協働の再開を願う。
						②	3.5						
				3	保護者の行っているという評価70%以上	③	3.3						
						④	3.7						
				2	保護者の行っているという評価60%以上	⑤	3.4						
						⑥	3.3						
				1	保護者の行っているという評価60%未満	専	3.3						
						全	3.2						
		地域の団体や他校種と連携しながら教育活動を進める。	青少年育成会、保育園、幼稚園との連携を深め、西東京市小中一貫教育を進める。 保護者や児童から教育活動の評価を受け、多様な視点で教育活動を改善する。	4	教職員のできているという評価８０%以上	①	3.0	教職員 保護者や児童から教育活動の評価を受け、多様な視点で教育活動を改善している。	100	学校評価を受け、各所と連携しながら教育活動を進めた。保育園との交流では、例年学校案内やレクリエーションなどを行っているが、コロナ禍の今年度は実施できなかった。入学に際しての聞き取りは、引き続き丁寧に行う。	今後も、コロナ禍でも実施可能な内容を連携する各所と検討し、保育園・幼稚園との交流や小中一貫教育を進めていく。また、保護者や児童からの評価を受け、多様な視点で学びを推進する教育活動の実施を図る。	A	・明保中学校との交流と連携の実態は、他に誇れるものだと思う。 ・中学校との連携はとても良いので、今後も引き続きお願いしたい。 ・コロナ禍では、難しいところ。
						②	3.1						
				3	教職員のできているという評価７０%以上	③	3.3						
						④	3.5						
				2	教職員のできているという評価６０%以上	⑤	3.4						
						⑥	3.3						
				1	教職員の時間ができているという評価６０%未満	専	3.8						
						全	3.3						
業務の改善	効率的な学校運営組織の構築、校務改善	迅速に対応する組織運営を進める。	報告、連絡、相談を密にし、迅速対応に徹する。記録を忘れない。	4	教職員のできているという評価８０%以上	①	3.7	教職員 報告、連絡、相談を密にして迅速対応に徹し、忘れずに記録している。	100	教職員間の報告、連絡、相談を密にし、迅速対応に徹する努力を重ねてきた。コロナ禍や社会情勢による目まぐるしい変化の中、実践してきたことを確実に生かし、引き継いでいけるよう、確実に記録を残すことができた。	今後も、状況に応じて的確に、かつ迅速に対応していく。来年度は、分掌部会を現在の４部会から３部会に再編成する。より迅速な報連相に努めながら、シンプルで効果的な組織運営を行っていく。	A	・担任の先生だけではなく、同学年であれば状況把握ができているようにしてほしい。 ・学校の働き方改革が一層推進することを期待する。
						②	3.8						
				3	教職員のできているという評価７０%以上	③	3.3						
						④	3.7						
				2	教職員のできているという評価６０%以上	⑤	4.0						
						⑥	3.8						
				1	教職員の時間ができているという評価６０%未満	専	3.8						
						全	3.7						
		企画委員会、経営支援部を中心に働き方改革・校務改善を進める。	各主任が担当部門を統括し、他分掌との連携を深め、仕事内容の精選を図る。	4	教職員のできているという評価８０%以上	①	3.3	教職員 各主任が担当部門を統括し、他分掌との連携を深め、仕事内容の精選を図っている。	96.2	各主任が担当部門を統括し、他分掌との連携を図りながら業務を行った。課題としては、会議時間が勤務時間を超えて行われていたことが多く、教員の負担増につながったことが挙げられる。	来年度は、会議の時間を勤務時間内に予め設定し、その時間を超えないように行う。会議の種類も精選し、議題内容を事前・事後に周知していくことで、校務改善を図っていく。	A	・地域との連携等で、業務軽減を。 「東小学習スタンダード」をベースに働き方改革を進めると良い。組織としての時間管理をベースに教職員の業務改善をさらに進めると良い。 ・学校の働き方改革が一層推進することを期待する。 ・効率的な会議の進め方のために、一部の教員の負担増にならないよう工夫が必要。
						②	3.8						
				3	教職員のできているという評価７０%以上	③	3.3						
						④	3.7						
				2	教職員のできているという評価６０%以上	⑤	3.4						
						⑥	4.0						
				1	教職員の時間ができているという評価６０%未満	専	3.8						
						全	3.6						